



## 平成31年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成31年2月12日

上場会社名 アルコニックス株式会社 上場取引所 東  
 コード番号 3036 URL http://www.alconix.com  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 竹井 正人  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役専務執行役員経営企画 (氏名) 手代木 洋 TEL 03-3596-7400  
 本部長  
 四半期報告書提出予定日 平成31年2月14日 配当支払開始予定日 ー  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成31年3月期第3四半期の連結業績（平成30年4月1日～平成30年12月31日）

#### (1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
31年3月期第3四半期	195,781	6.6	4,946	△9.8	5,039	△14.8	3,612	△15.0
30年3月期第3四半期	183,706	25.6	5,482	86.2	5,915	99.7	4,250	79.4

(注) 包括利益 31年3月期第3四半期 2,285百万円 (△50.9%) 30年3月期第3四半期 4,655百万円 (ー%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
31年3月期第3四半期	139.61	ー
30年3月期第3四半期	164.54	164.22

(注) 31年3月期第3四半期の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
31年3月期第3四半期	134,733	39,905	28.3
30年3月期	130,197	38,626	28.3

(参考) 自己資本 31年3月期第3四半期 38,168百万円 30年3月期 36,826百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
30年3月期	ー	13.00	ー	19.00	32.00
31年3月期	ー	19.00	ー	ー	ー
31年3月期(予想)	ー	ー	ー	19.00	38.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 平成31年3月期の連結業績予想（平成30年4月1日～平成31年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	270,000	8.9	7,000	△4.4	7,700	△3.0	5,500	3.1	212.51

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無  
新規 一社（社名）、除外 一社（社名）

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

（注）詳細は、[添付資料] 9 ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記（3）四半期連結財務諸表に関する注記事項（四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用）」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	31年3月期3Q	25,882,200株	30年3月期	25,864,800株
② 期末自己株式数	31年3月期3Q	1,035株	30年3月期	961株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	31年3月期3Q	25,874,870株	30年3月期3Q	25,829,877株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、[添付資料] 4 ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	9
(追加情報)	9
(セグメント情報)	10

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間における世界の経済環境は、米国では良好な雇用所得環境と減税効果により景気回復が続きました。欧州においては輸出が伸び悩む一方、英国のEU離脱交渉の難航により景況感に不透明さが増しました。また、中国においては米中間の貿易摩擦による景気減速が顕著となりました。

我が国経済は輸出の緩やかな回復、個人消費の持ち直し、企業の設備投資増等から、景気は緩やかな回復基調を維持いたしました。

当社グループを取巻く非鉄金属業界においては、非鉄市況が期初の水準から米中の貿易摩擦とドル金利上昇を背景に下落傾向に転じる中、自動車関連需要は電装化、軽量化の進行に伴い増加いたしました。また、半導体関連需要は、ここ数年、スマートフォンという特定製品に依存しているところがありました。しかし5G通信やIoT、AI等におけるデータ量の増加、自動車のより一層の電装化等で半導体そのものの需要が重層的な広がりを見せ始めたことで本来の健全な成長軌道に戻り、安定成長に移行し始めました。

このような経済環境のもと、当社グループにおいては、半導体製造・実装装置関連並びに自動車関連、めっき材料を中心とした国内外における製造子会社の業績が順調に推移するとともに、商社流通分野においてもアルミ原料、レアメタル等の取扱いが増加いたしました。なお、利益面においては製造子会社2社の株式取得関連費用、並びにレアメタルの取引で発生した滞留債権に対して貸倒引当金を計上したこと等から営業利益、経常利益並びに親会社株主に帰属する四半期純利益は前年同期に比べ減益となりました。

この結果、当第3四半期連結累計期間における連結経営成績は、売上高195,781百万円（前年同期比6.6%増加）、営業利益4,946百万円（同9.8%減少）、経常利益5,039百万円（同14.8%減少）、親会社株主に帰属する四半期純利益3,612百万円（同15.0%減少）となりました。

当第3四半期連結累計期間におけるセグメントの業績は次のとおりであります。また、各セグメントの売上高は、セグメント間の内部売上高を含んでおります。

#### ・商社流通－電子機能材事業

スマートフォン、タブレット端末向け部材は、一部の取扱品に在庫調整が続いたものの総じて堅調に推移いたしました。また、二次電池関連部材並びに環境関連部材の需要も底堅く推移し、チタン・ニッケル製品も欧州向けを中心に引続き堅調に推移いたしました。一方、レアメタル・レアアースにおいては、電子材料向け需要の拡大により取扱いは前年同期に比べ増加いたしました。なお、利益面ではレアメタルの取引で発生した滞留債権に対して貸倒引当金を計上したことから前年同期に比べ大きく減少いたしました。

この結果、当セグメントにおける売上高は66,692百万円（前年同期比20.4%増加）、セグメント利益は634百万円（同46.3%減少）となりました。

#### ・商社流通－アルミ銅事業

製品分野においては、自動車の電装化・軽量化に伴う非鉄需要自体は堅調であるものの、米中貿易摩擦の長期化により特に中国の景気後退が顕著となり、自動車並びに半導体生産動向に鈍化が見受けられました。また、空調機器関連の出荷台数が好調に推移したことに伴い関連部材の取扱いが伸びましたが、飲料向け缶材はペットボトル化の影響から取扱いは減少いたしました。一方、原料分野におきましては、自動車向けアルミ原料の取扱いは堅調でありましたが、当第3四半期連結累計期間における非鉄市況が低迷したことにより、銅スクラップの売上が前年同期に比べ減少いたしました。

この結果、当セグメントにおける売上高は102,154百万円（同0.8%増加）、セグメント利益は883百万円（同1.4%減少）となりました。

#### ・製造－装置材料事業

めっき材料においては北米、中国の両拠点における出荷が当第3四半期連結累計期間において堅調に推移し、同事業における売上及び利益は前年同期に比べ増加いたしました。また溶接棒の出荷並びに溶射施工の受注は自動車向け需要を中心に前年同期水準で推移いたしました。一方、非破壊検査装置及びマーキング装置分野においては、国内外の自動車産業向け出荷が各拠点でまとまりましたが、装置の一部で出荷時期が先送りされた他、鉄鋼産業向け消耗品需要の減少により、同事業の収益は前年同期に比べ減少いたしました。なお、当第3四半期連結累計期間において東北化工株式会社並びに株式会社富士カーボン製造所の株式取得関連費用を計上いたしました。

この結果、当セグメントにおける売上高は15,802百万円（同10.2%増加）、セグメント利益は515百万円（同18.9%減少）となりました。

#### ・製造－金属加工事業

半導体実装装置向け研削加工部品は実装装置需要の拡大が継続し出荷は堅調に推移し、自動車向け試作部品の受注も前年同期に比べ増加いたしました。平成30年2月に竣工した新工場の減価償却開始並びに繁忙に伴う労務費、外注費等の製造原価増加が若干の減益要因となりました。一方、精密切削加工部品は航空機部品、及び半導体製造装置向けを中心に順調に推移し、金属精密プレス部品においても国内自動車向け需要の増加により出荷は堅調でありました。

この結果、当セグメントにおける売上高は15,956百万円（同5.4%増加）、セグメント利益は3,040百万円（同5.1%減少）となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

## ①財政状態

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を平成31年3月期第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、財政状態の状況については、当該会計基準等を遡って適用した後の数値で前連結会計年度との比較・分析を行っております。

## a. 流動資産

当第3四半期連結会計期間末における流動資産は100,108百万円であり、前連結会計年度末比5,079百万円の増加となりました。主な内訳は、現金及び預金の増加1,033百万円、受取手形及び売掛金の増加148百万円、たな卸資産の増加4,712百万円、及び前渡金の減少717百万円であります。

## b. 固定資産

当第3四半期連結会計期間末における固定資産は34,625百万円であり、前連結会計年度末比543百万円の減少となりました。主な内訳は、有形固定資産の増加836百万円、のれんを含む無形固定資産の増加1百万円、及び投資その他の資産の減少1,381百万円であります。

## c. 流動負債

当第3四半期連結会計期間末における流動負債は78,553百万円であり、前連結会計年度末比6,160百万円の増加となりました。主な内訳は支払手形及び買掛金の減少564百万円、短期借入金の増加8,000百万円、及び1年以内返済予定長期借入金の増加700百万円であります。

## d. 固定負債

当第3四半期連結会計期間末における固定負債は16,274百万円であり、前連結会計年度末比2,903百万円の減少となりました。主な内訳は長期借入金の減少2,738百万円であります。

## e. 純資産

当第3四半期連結会計期間末における純資産は39,905百万円であり、前連結会計年度末比1,279百万円の増加となりました。主な内訳は利益剰余金の増加2,629百万円、その他有価証券評価差額金の減少1,076百万円、及び為替換算調整勘定の減少245百万円であります。

## ②経営成績

## a. 売上高

売上高の主な増加要因は、国内外の製造子会社並びに商社流通における電子機能材分野等の増収であります。取扱品別でみると、商社流通では、電子材料向けレアメタル・レアアース、ニッケル地金、電池材料、アルミニウム再生塊等の非鉄原料等の取扱いが前年同期に比べて増加いたしました。一方、製造ではめっき材料、精密切削加工部品並びに研削加工部品、及び精密プレス部品等の出荷が増加いたしました。この結果、当第3四半期連結累計期間における売上高は、前年同期比6.6%増加の195,781百万円となりました。

## b. 売上総利益

製造子会社、及び商社流通における電子機能材の増収が貢献し、当第3四半期連結累計期間における売上総利益は前年同期比5.2%増加の14,750百万円となりました。

## c. 販売費及び一般管理費

当社及びグループ各社における事業基盤拡充のための支出、東北化工株式会社及び株式会社富士カーボン製造所の株式取得関連費用に加え、レアメタルの取引で発生した滞留債権に対して貸倒引当金を計上いたしました。このことから当第3四半期連結累計期間における販売費及び一般管理費は前年同期比14.8%増加の9,804百万円となりました。

## d. 営業利益

上記の結果、当第3四半期連結累計期間における営業利益は前年同期比9.8%減少の4,946百万円となりました。

## e. 営業外収益、営業外費用

受取配当金並びに受取利息の増加があったものの、持分法適用関連会社の株式売却に伴う持分法投資利益の減少、支払利息の増加、及び外貨建債務の評価替えに伴う為替差損により、営業外収支(営業外収益－営業外費用)は92百万円の収入超となりました(前年同期は432百万円の収入超)。

## f. 経常利益

上記の結果、当第3四半期連結累計期間における経常利益は前年同期比14.8%減少の5,039百万円となりました。

## g. 特別利益、特別損失

補助金収入等の特別利益209百万円を計上する一方、投資有価証券売却損等の特別損失8百万円を計上いたしました。

h. 親会社株主に帰属する四半期純利益

税金等調整前四半期純利益5,240百万円から、法人税等1,551百万円、連結子会社10社における非支配株主に帰属する四半期純利益76百万円を差引き、当第3四半期連結累計期間における親会社株主に帰属する四半期純利益は前年同期比15.0%減少の3,612百万円となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

現時点において、当社グループの平成31年3月期の通期業連結業績予想については、当第3四半期連結累計期間業績並びに、当社グループを取巻く事業環境を勘案し、平成30年5月15日の「平成30年3月期決算短信[日本基準](連結)」で公表いたしました通期連結業績予想を変更していません。ただし、今後の経営環境を踏まえ、業績予想の修正が必要である場合には、適時に開示してまいります。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成30年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	18,698	19,732
受取手形及び売掛金	47,495	47,643
商品及び製品	20,718	24,688
仕掛品	2,222	2,496
原材料及び貯蔵品	1,128	1,599
その他	4,935	4,695
貸倒引当金	△171	△746
流動資産合計	95,028	100,108
固定資産		
有形固定資産	14,811	15,648
無形固定資産		
のれん	3,478	3,727
その他	4,232	3,984
無形固定資産合計	7,710	7,712
投資その他の資産	12,646	11,264
固定資産合計	35,168	34,625
資産合計	130,197	134,733
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	33,922	33,357
短期借入金	26,635	34,635
1年内返済予定の長期借入金	4,442	5,143
1年内償還予定の社債	149	149
未払法人税等	2,054	496
賞与引当金	947	687
その他	4,241	4,082
流動負債合計	72,393	78,553
固定負債		
社債	675	525
長期借入金	14,150	11,412
役員退職慰労引当金	823	853
退職給付に係る負債	565	782
長期未払金	30	30
その他	2,932	2,670
固定負債合計	19,178	16,274
負債合計	91,571	94,828

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成30年12月31日)
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	2,956	2,968
資本剰余金	1,978	1,990
利益剰余金	27,698	30,328
自己株式	△0	△0
株主資本合計	32,633	35,285
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,366	289
繰延ヘッジ損益	△31	△19
為替換算調整勘定	2,858	2,612
その他の包括利益累計額合計	4,193	2,882
新株予約権	1	6
非支配株主持分	1,797	1,730
純資産合計	38,626	39,905
負債純資産合計	130,197	134,733



## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年12月31日)
売上高	183,706	195,781
売上原価	169,680	181,030
売上総利益	14,025	14,750
販売費及び一般管理費	8,542	9,804
営業利益	5,482	4,946
営業外収益		
受取利息	50	107
仕入割引	10	13
受取配当金	255	288
為替差益	8	—
不動産賃貸収入	64	60
持分法による投資利益	298	152
屑売却益	177	193
その他	96	138
営業外収益合計	962	953
営業外費用		
支払利息	369	497
売上割引	7	7
為替差損	—	226
手形売却損	16	21
不動産賃貸原価	14	12
その他	122	95
営業外費用合計	530	861
経常利益	5,915	5,039
特別利益		
固定資産売却益	0	12
新株予約権戻入益	12	1
投資有価証券売却益	12	36
助成金収入	3	3
補助金収入	—	154
その他	1	1
特別利益合計	30	209
特別損失		
固定資産売却損	4	0
固定資産除却損	7	2
投資有価証券売却損	—	5
投資有価証券評価損	2	—
会員権売却損	6	—
その他	0	—
特別損失合計	20	8
税金等調整前四半期純利益	5,924	5,240
法人税等	1,564	1,551
四半期純利益	4,359	3,689
非支配株主に帰属する四半期純利益	109	76
親会社株主に帰属する四半期純利益	4,250	3,612

(四半期連結包括利益計算書)  
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成30年4月1日 至 平成30年12月31日)
四半期純利益	4,359	3,689
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	483	△1,146
繰延ヘッジ損益	△73	13
為替換算調整勘定	△164	△212
持分法適用会社に対する持分相当額	49	△58
その他の包括利益合計	295	△1,403
四半期包括利益	4,655	2,285
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	4,538	2,302
非支配株主に係る四半期包括利益	117	△16

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算) 税金費用の計算

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

なお、法人税等調整額は、法人税等を含めて表示しております。

(追加情報)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。

(セグメント情報)

## 【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自平成29年4月1日至平成29年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント				合計
	商社流通		製造		
	電子機能材	アルミ銅	装置材料	金属加工	
売上高					
外部顧客に対する売上高	53,538	100,982	14,251	14,933	183,706
セグメント間の内部売上高又は振替高	1,852	374	85	204	2,517
計	55,390	101,357	14,337	15,138	186,223
セグメント利益	1,181	896	635	3,203	5,916

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位: 百万円)

利益	金額
報告セグメント計	5,916
セグメント間取引消去	△1
四半期連結損益計算書の経常利益	5,915

II 当第3四半期連結累計期間(自平成30年4月1日至平成30年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント				合計
	商社流通		製造		
	電子機能材	アルミ銅	装置材料	金属加工	
売上高					
外部顧客に対する売上高	63,660	100,669	15,699	15,751	195,781
セグメント間の内部売上高又は振替高	3,031	1,484	103	205	4,824
計	66,692	102,154	15,802	15,956	200,605
セグメント利益	634	883	515	3,040	5,074

2. 報告セグメントごとの資産に関する情報

当第3四半期連結会計期間において、アルコニックス・東北化工株式会社を新たに設立、同社により東北化工株式会社の株式を取得、またその子会社であるTohoku Chemical Industries(Vietnam),Ltd.を新たに連結の範囲に含めたことにより、前連結会計年度の末日に比べ、当第3四半期連結会計期間の報告セグメントの資産の金額は、「装置材料事業」において3,168百万円増加しております。

3. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位: 百万円)

利益	金額
報告セグメント計	5,074
セグメント間取引消去	△35
四半期連結損益計算書の経常利益	5,039

4. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

当第3四半期連結会計期間において、アルコニックス・東北化工株式会社を新たに設立、同社により東北化工株式会社の株式を取得、またその子会社であるTohoku Chemical Industries(Vietnam),Ltd.を新たに連結の範囲に含めたことにより、「装置材料事業」においてのれんの金額が542百万円増加しております。